

営農技術情報

発行 令和3年6月25日
第11号

たいせつ農業協同組合
営農部 農産販売課

本所 営農センター 57-2357
支所 営農センター 87-4111

今後の水管理が収量に大きく影響します。
適切な水管理を行いましょ！

○前歴期間の水管理

早いほ場では例年6月25日頃に幼穂形成期に入り（品種：ななつぼし）、前歴期間に入ります。幼穂形成期を確認したら水深を5cmから徐々に10cmまでの深水とし、水温を維持しましょう。用水量が豊富な場所での急激な入水や用水量の足りない場所でも毎日入れ続けることはせずに、ほ場を冷やさない様にしましょう。

	6月 下旬	7月 上旬		7月 中旬		7月 下旬
生育期節	幼穂形成期 前歴期間		止葉期 冷害危険期		出穂期	
管理	深水管理					溝切りの施工 中干し

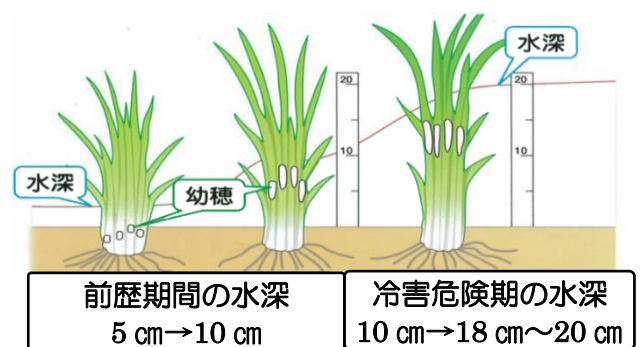
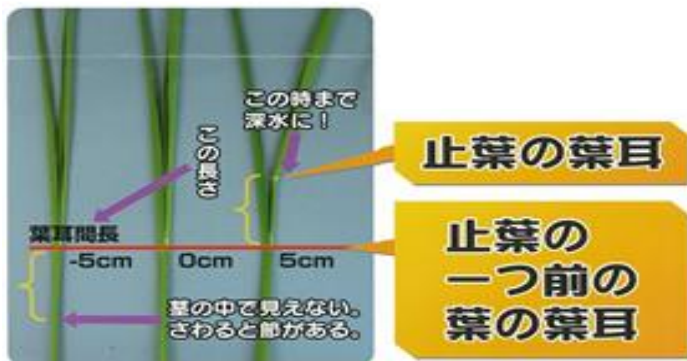
幼穂形成期から10日間 冷害危険期後7日程度

今後の天気は最低気温が12℃と低い予報の日もあるので、今後の気象情報に十分注意し、深水による適切な水管理を実施してください。

日付	6月26日 (土)	6月27日 (日)	6月28日 (月)	6月29日 (火)	6月30日 (水)	7月1日 (木)
天気	晴れ	晴時々曇	曇時々晴	曇り	曇り	曇り
気温(℃)	28 12	30 13	28 16	25 15	24 14	25 14
降水確率(%)	10	0	30	40	40	20

○冷害危険期もしっかり深水管理を。(前歴期間10日以降の約7日間)

冷害危険期に低温に遭遇すると正常な花粉が減少します。冷害危険期は止葉と前葉の付け根にある「葉耳」の間隔（葉耳間長）を計測して判断します。止葉と前葉の葉耳間長が-5cmで冷害危険期の始まりとなります。水深は幼穂の伸長に合わせて徐々に深くし、最大18~20cmを保ち、低温から幼穂を守りましょう。天候不順が続くと止葉の抽出が鈍り冷害危険期が長引きますので、葉耳間長を確認して適時深水期間の延長を図りましょう。



※農作業事故には十分注意し、安全作業に努めましょ！